鯉城

第67号

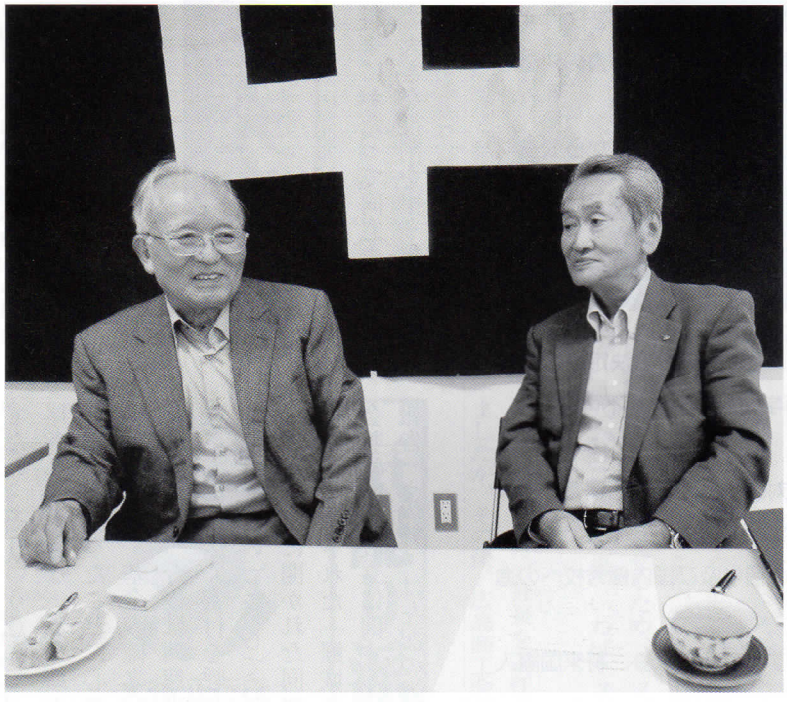
平成26（2014）年12月15日

広島市中区国泰寺町1丁目2番49号
〒730-0042　広島国泰寺高等学校内
鯉城同窓会
電話(082)241-9777　FAX(082)248-7341
E-mail　rijo@orion.ocn.ne.jp
URL　http://www.rijo.gr.jp

グローバル人材の育成を

OB松尾さんが奨学資金3千万　財団を設立

「後輩たちのグローバル人材の育成に役立ててほしい」。昭和29年卒の松尾聰さんが総額3000万円余りの寄付を申し出て、これをもとに鯉城同窓会奨学財団（代表理事・八木忠士鯉城同窓会会長）が設立された。財団は現役高校生を対象に平成27年度からの奨学金給付を目指し、規約の整備など準備作業に追われている。



奨学財団について語り合う松尾さん（左）と同窓会の八木会長

松尾さんから資金援助の申し入れがあったのは、今年1月下旬。その後、母校や同窓会に対し「留学などを希望する在学生がいたら、学資面で支援したい」、また支給方法や金額については「原資として、年間300万円程度を10年間にわたって継続拠出する」「財団の適正な運営のために、原資とは別に平成26年度から3年間、計300万円の運営費を寄付する」などの説明があり、同窓会では役員会、幹事会の承認を経て、8月に奨学財団を設立した。

これまでの話し合いの結果、給付対象者は、海外留学、海外サマースクール、国内難関校を志望する在校生。完全給付型（返済義務なし）とし、年間10人程度を見込んでいる。将来は、対象者を在校生だけでなく卒業生にも広げ、文化、スポーツ分野なども視野に入れて、対象範囲の拡大を図る。募集は年に2回で、来年3月からのスタートを予定している。

財団の代表理事には同窓会の八木会長、常務理事には同窓会事務局長の久保木敬子さん、顧問には松尾さんが就任した。同窓会と財団の関係については、財団を同窓会内に設置し、同窓会事務局が財団の諸事務を行う。

奨学財団は一般財団法人としての設立だったが、広く同窓生から寄付を募り、基金の拡充に努める方針に伴い、12月1日に公益財団法人の認定を受けた。

松尾さんは平成23年11月から今年5月まで東京鯉城同窓

寄付募り基金充実

八木会長

会の会長を務め、現在は顧問。スナック菓子メーカーのカルビー（株）の元社長であり、父君の孝さん（平成15年、91歳で死去）も昭和6年に旧制広島一中を卒業した同窓生だった。

財団の代表理事である同窓会の八木会長は「奨学財団は、将来にわたって同窓生にとって大きな役割を担う組織に育てたい。そういう意味で、松尾さんが大きな一歩を踏み出してくださったことに心から感謝したい。基金の確立・充実のために、今後は同窓生の皆さんに、広く寄付を呼びかけていきたい」と話している。

9月24日に開かれた同窓会幹事会で示された「鯉城同窓会奨学財団設立に関する現状報告」（抜粋）は左記の通り。

9月24日の同窓会幹事会で示された「鯉城同窓会奨学財団設立に関する現状報告」（抜粋）

■ 鯉城同窓会奨学財団については、一般財団法人として次の通り登記申請した。

(1) 登記　平成26年8月8日登記（S45年卒石丸淳司法書士）

(2) 名称　一般財団法人広島国泰寺高等学校鯉城同窓会奨学財団（略称：鯉城同窓会奨学財団）

(3) 代表　代表理事は、鯉城同窓会　八木忠士会長

■ 会議　鯉城同窓会奨学財団第1回理事会及び第1回評議員会を9月4日（木）に開催し、平成26年度・平成27年度事業計画及び収支予算書の決議をした。

■ 奨学財団への寄付者が寄付控除対象となるよう、一般財団法人から公益財団法人に移行申請することを決議した。

■ 今後の奨学財団の活動は、次の通りである。

- 平成26年度事業計画は、平成27年度から奨学金を給付するため募集要項を作成し、年度末までに説明会を実施する予定
- 平成27年度事業計画は、選考委員会を開催し、給付対象者の決定及び給付事業を開始する予定（いずれも広島国泰寺高等学校との調整が不可欠）

■ 募集要項について

- 奨学財団の目的である「社会のグローバル化に対応し、国際で活躍できる人材の育成」を達成するため、広島国泰寺高等学校と協議中である
- 募集をⅠ型とⅡ型の2種類とし、Ⅰ型は海外への留学及び国内優秀校への進学を対象とする
- また、Ⅱ型は短期留学等、海外での活動を体験することにより、将来国際人として活躍する素地つくりの一助とする

チャレンジの精神を大切に

後輩に託す思い

松尾　聰さん
（昭和29年卒）

以前から、出身地、出身校のために何かできることはないかと思っていましたが、今回、在学中の後輩の皆さんのために、奨学資金を出そうと思い立ちました。最近の若い人の動向をみると、東京の大学や海外留学を希望する人が減っているようです。

カルビーでも今や海外市場の開拓などに積極的に力を入れています。日本だけに固まらず、グローバルな視点を持つ人材が、国泰寺高校からどんどん出てもらいたい、そういう意欲あふれる若い人を応援したいという気持ちからです。

私の父は広島一中を卒業し、家庭の事情で上級学校に進学できず、家業を継ぐことになりました。働き始めてから、一中時代の先輩たちの多大な支援を受けて、終生恩義に感じていました。その父は教育熱心で、新しい教育理論をよく勉強していました。

私自身の高校時代を振り返ると、2年生のときに校友会（生徒会）の会長選挙に立候補。「学園の自治が危ない」と訴えて当選し、私なりに保守的になりかけていた体制打破を目指して頑張ったことが印象に残っています。

高校卒業後は広島大学工学部に進んだのですが、もともと教育分野に興味があり、本当は教育学部で学びたかったのです。今回のことも若い人を育てたいという思いでつながっているのかもしれません。

カルビーもいろんな苦しい時代がありました。それらを一つひとつ乗り越えて今日があるわけです。若き後輩の皆さんも、チャレンジする精神を忘れず、実力を蓄えてください。そのために私の寄金がお役に立てるなら、こんなにうれしいことはありません。

追悼

今年を振り返ると、同窓会会員にとって残念な訃報もあった。自動車メーカーのマツダ社長を務められた山崎芳樹さん（昭和7年卒）が3月10日に、鯉城関西同窓会副会長の大谷正行さん（昭和33年卒）が7月4日に亡くなられた。それぞれに縁が深い竹林守さん（昭和29年卒、元マツダ代表取締役会長）と大津巧さん（昭和39年定卒、鯉城関西同窓会幹事長）のお二人に、追悼文を寄せていただいた。

マツダ・広島に大きな足跡

故山崎芳樹氏

にこやかにほほ笑むありし日の山崎さん

奥様が押される車いすに乗って、毎月の二木会に出席されていました。名札には「昭和7年卒」とあり、圧倒的な大先輩であることを示しており、出席者から畏敬の念で見られていました。いつも二木会で「鯉城の夕」を合唱することをとても楽しみにされていました。ご自宅でもCDに合わせて度々歌っておられたとか。若き血潮のたぎる一中時代が強く印象に残っていたのでしょう。

私が山崎先輩とご縁ができたのは、昭和34年、東洋工業（現マツダ）に入社した時からでした。私はエンジン製造工場に技術員として配属されましたが、その時の製造部門のトップが、自動車製造部長の山崎先輩でした。私の直接の上司は主任、更に課長で、厳しくまた強いリーダーシップを持った素晴らしい上司たちで、お二人とも一中の昭和20年卒、昭和16年卒の先輩でした。私はその上司を通じ、直接または間接に山崎先輩に厳しく指導を受けました。平素は優しく温顔ですが、間違ったことをすると顔色を変えて叱責されました。

山崎先輩は、製造部門を陣頭指揮、右肩上がりの自動車生産を乗り切り、大きな実績を挙げられました。その業績や手腕を評価され、昭和52年、オイルショック後の東洋工業の経営再建をするため社長に就任されました。内部では原価低減活動、品質改善活動を推進し、商品ではサバンナRX7、ファミリアなどヒット車を生み出し、経営を建て直されました。また、ブランド名と会社名を一致させるため、マツダ株式会社に社名変更。いわばマツダ中興の祖でした。

昭和59年5月、社長を退任されましたが、その後、広島商工会議所会頭、広島証券取引所理事長などの要職を務められ、地域社会に貢献されました。

山崎先輩は優れた運動神経の持ち主でした。一中時代は蹴球部に属され活躍されたそうです。東洋工業入社後、蹴球部を創設、選手兼監督として活躍、後に部長として天皇杯獲得、日本リーグ優勝の強いチームに育て上げられました。これが現在のサンフレッチェの母体となってサッカー王国広島の頂点に発展していったわけです。

今年3月10日、満99歳11ヶ月でご逝去されました。もう1ヶ月で満100歳でした。

マツダにも広島にも大きな足跡を残された山崎先輩を悼むとともに、安らかにお眠りくださいと合掌いたします。

（昭和29年卒　竹林守
＝元マツダ代表取締役会長）

気配り派リーダー

故大谷正行氏

大谷 正行氏

七月四日の突然のご逝去から三月が経ちます。今でもわが家の電話が鳴ると、受話器の向こうから「どうも、大谷です」と、いつもの声が聞こえてくるようです。

大谷さんとの出会いは、十余年前に近畿広島県人会の巻幡展男会長らと「同窓会を関西でも発足させよう」と話し合ったころにさかのぼります。平成17年暮れ、広島の会報に掲載された「関西鯉城同窓会設立の動き」の記事を読まれた大谷さんがわが家に電話をくださったのが、御縁の始まりでしたね。

鯉城関西同窓会誕生から今日までご尽力をいただきました。周りへの気配りに加え、副会長としても持ち味を発揮され、ムードメーカーでもありました。

会合の帰りには梅田や天王寺の最寄り駅で下車し、居酒屋でジョッキを片手に「関西らしいユニークな会」を目指して、熱い夢をよく語り合いましたね。後に関西同窓会の会長になられる伊藤彰雄さんを含めた「3人組」時代は、すばらしい10年でした。

昭和33年卒の同期会「紫旗の会」は歴史的にも古く、その中枢的リーダーを担ってこられましたね。近年は広島の総会のほか、広島二木会や東京二水会にも出席され、同期の皆様からの信望も厚い方でした。

あなたのスピリットは、鯉城関西同窓会の皆さんにも伝承され、確実に育まれています。これからの本会の活動を、天上からしっかり守ってくださいと申し上げ、追慕の言葉といたします。

大谷さん、ありがとうございました。安らかにお眠りください。

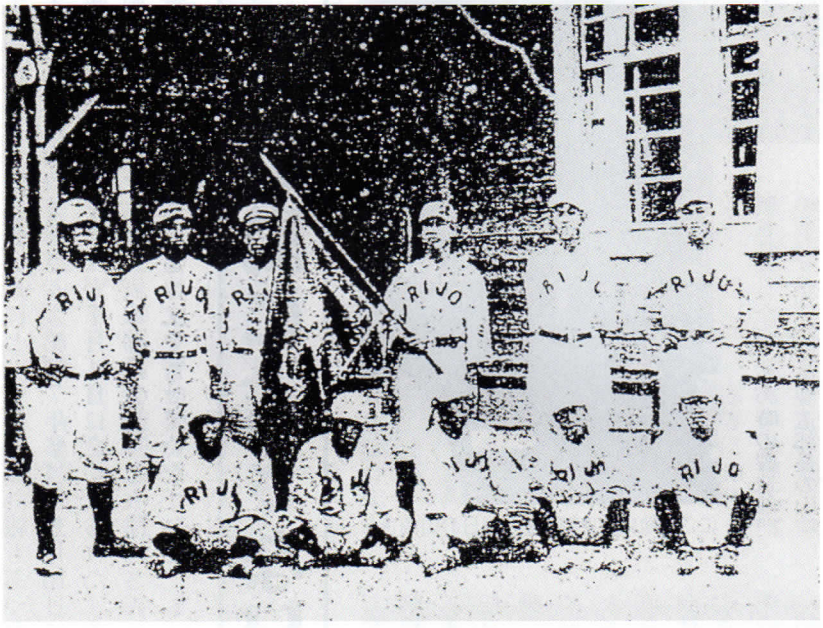
（昭和39年定卒　大津巧
＝鯉城関西同窓会幹事長）

高校野球100周年を記念し「夢大会」

初回出場10校が対戦
母校OBが協力呼びかけ

甲子園で来年12月

高校野球の歴史の原点を再現しよう―。全国高校野球選手権大会が始まって100周年になるのを記念して、第1回大会に出場した10校のOBチームが、来年12月19、20の両日、甲子園球場で対戦するプロジェクトが、実現に向けて着々と進んでいる。推進役を務めてきたのは鯉城野球部OB会。これまでの取り組みを振り返った。



第1回大会の出場時の写真

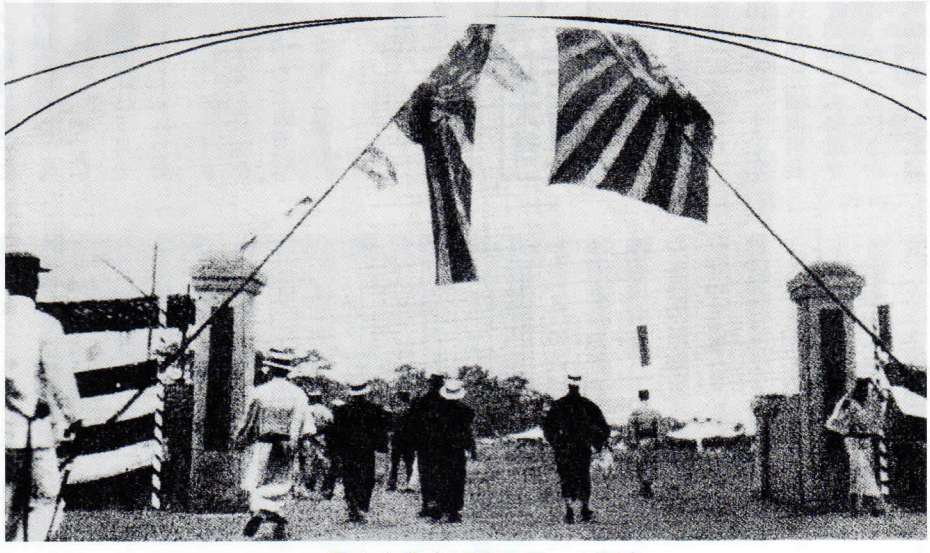
母校野球部の歴史は、広島県内で最も古く、当時の広島中野球部の創部は1890（明治22）年にさかのぼる。その後、現在の広島県立広島商業高校や広陵高校に野球部ができ、お互いに切磋琢磨していた。そんな中、広島中は大正時代まで無敵を誇り、早稲田大学やハワイハイスクールのチームが来広した際は、県内の学校を代表して対戦相手になったこともあったようだ。

高校球児の夢の舞台である全国高等学校野球選手権大会の第1回大会は、1915（大正4）年に「第1回全国中等学校優勝野球大会」として、現在の大阪府豊中市の豊中グラウンドで開かれた。全国の地方大会を勝ち抜いた代表10校が熱戦を展開。山陽地方の代表として出場したのが、地方大会の決勝で広島商を破った広島中だった。

地方代表として、8月18日から6日間の日程で始まる全国大会に向かうチームの様子が、朝日新聞に次のように紹介されている。

「応援団も30余名に上り、17日午前7時、宇品を出る『新栄丸』にて上阪、団員は浴衣の上に袴をうがち、広島中の帽子をかぶり、手に紫の字を染めぬきたる応援旗を携える様見るも勇ましかりき…」

大会の第一試合は、広島中と山陰代表の鳥取中（鳥取県立鳥取西高）の対戦から始まった。試合前にホームベースをはさんで、両チームの選



1回大会豊中球場入場口の写真

手が一塁側と三塁側に整列して互礼するセレモニーは、この対戦から始まった。

残念ながら広島中は初戦で敗退したが、大会第1号のホームランは広島中の中村隆元選手が放った。2014年の段階で春、夏の甲子園大会を通じて、ホームランは通算2168本（このうち夏の大会は1460本）。歴史に残る最初の1本は、この時の中村選手が打ったわけだ。ちなみに、今年の夏の甲子園大会は第96回（春の選抜は86回）で、来年100回大会ではないが、これは戦時中の中断などがあったため。

初回大会の後、母校は広島一中時代を含めて、全国大会に再び出場するという夢は果たせていない。今から7年前、同じ立場にあった三重県の宇治山田高校との交流が生まれ、両校のOBチームが、それぞれの先輩たちの偉業を胸に親善試合をした。そういう流れの中、「第1回大会で試合をした10校が集まり、2015年に甲子園で再現試合をしようではないか」というアイデアが浮上し、鯉城野球部OB会が中心になって各校に連絡を取りながら話し合いが進んだ。

対戦の組み合わせなどは、初回大会を踏襲している。

〈出場校〉

母校と旧鳥取中（鳥取西高）以外の出場校は、当時の秋田中（秋田県立秋田高）、早稲田実業学校（早稲田実業高）、京都二中（京都府立鳥羽高）、山田中（三重県立宇治山田高）、和歌山中（和歌山県立桐蔭高）、神戸二中（兵庫県立兵庫高）、高松中（香川県立高松高）、久留米商（久留米商）

最終総額2002万円 同窓会館建設寄付

鯉城同窓会館建設に伴う寄付金募集は、今年1月末まで実施され、最終的に約2025件、総額2002万円にのぼった。前号の会報66号では、昨年11月末時点の集計について、約1070件、1940万円とお知らせしたが、その後、53件、62万円上積みする形になった。昨年12月1日以降の寄付者の名前は左記の通り。

同窓会館建設寄付金

〈S13卒〉上田正彦
〈S15卒〉長野博
〈S20④卒〉安井信二
〈S22卒〉巻幡展男
〈S23卒〉造力晋
〈S26卒〉海住秀雄／西本（住田）晴子
〈S28卒〉近藤礼次郎
〈S28生卒〉佐々木（為数）万里子
〈S30卒〉清柳由朗／高山剛
〈S31卒〉遠藤信雄／臼井正明
〈S31定卒〉仲川秀明
〈S32卒〉小林（間）美那子／斧林（住川）雅子／田口（小川）ヒロミ／吉田（三浦）悦子／村上佳子
〈S33卒〉尾坂一宇／川口栄吉／竹下進／佐伯誠／宗像正夫／望月重徳
〈S33定卒〉末岡（奥河内）勝子
〈S35生卒〉大森（友田）タミ子
〈S35定卒〉川本（矢野）純平
〈S36卒〉中丸（百々）慈子／甲島和義
〈S36生卒〉柴田時枝
〈S37定卒〉下高呂武春
〈S38卒〉北田初郎／末岡（沼本）典子
〈S39定卒〉大津巧／高田吉峯
〈S40卒〉小川（千葉）和之
〈S40定卒〉土井（竹内）文子
〈S42卒〉井上（池田）淑子／蛭川（平野）直美／小西和憲／酒井薫
〈S43卒〉原田（迫田）綾子
〈S44卒〉河野隆
〈S47卒〉兼丸（下江）孝子
〈S49通卒〉川向栄子
〈S55通卒〉栗栖孝子
〈S57卒〉岡本一路
〈S58卒〉古田小百合
〈S60卒〉安田秀二
〈S61卒〉越野（川向）朋子
〈H22卒〉楠本菜帆
〈H24卒〉尾崎花香

什器備品類寄付

【S31卒】冨田信義
S31卒秋山礼巳さん絵画作品「原爆ドーム」
【S29卒】松尾聰　美甘章子著書「8時15分～ヒロシマで生き抜いて許す心～」
【H1卒】平田利仁　明治41年卒棋士瀬越憲作御城棋譜全10巻、陶板楯

スタンドできずな強化

野球部OB会山本将司さん（昭和58年卒）の話

構想が生まれて以来、野球部OBを中心に6、7人が手分けをして作業に取り組んできました。最も苦労したのは他校に声を掛け、趣旨を説明して、全ての学校の同意を取り付けることでした。遠方の学校は甲子園まで足を運ぶとなると費用がかかるわけです。1校でも欠けると意義が薄れるので、こちらも必死に説得しました。まだ先の話ではありますが、甲子園のスタンドに鯉城の旗を立て、全国の同窓生の皆さんともども、それぞれの同窓会を開き、きずなを確かめ合いながら、大会を盛り上げようという気持ちです。今からさらに準備に力を入れたいと思います。どうぞ皆さん、ご協力をお願いいたします。

新役員の顔ぶれ

顧問	調子昭雄（昭20年⑤） 大井孝三（昭23年） 亀井郁夫（昭24年併） 田村鋭治（昭25年） 新田篤美（昭和25年） 碓井法明（昭35年）
参与	日山隆司（昭24年鯉1） 加計邦夫(昭24年併27年) 木坂孝治（昭24年併） 竹林　守（昭29年）
会長	八木忠士（昭33年）

常任委員会	副会長		常任委員会 委員長	常任委員会 副委員長
総務委員会	福間駿吉（昭24年⑤） 奥田典子（昭33年） 戸田武弘（昭47年）		昌子　均（昭48年）	榎本暢之（昭56年）
（一中遺族会）	福間駿吉（昭24年⑤）			
運営委員会	山成宣彦（昭36年）	金子俊介（昭41年）	増本　智（昭47年）	越智孝広（昭54年）
財務委員会	桑野恭彬（昭34年） 酒井文一（昭51年）	三木武彦（昭37年）	桂　秀昭（昭47年）	櫻井嘉尚（昭54年）
広報委員会	伊藤　暉（昭35年）		大石一朗（昭43年）	山本訓子（昭39年） 田中敬子（昭59年）
資料保存委員会	土井敏正（昭36年）	田丸健三（昭41年）	山口修司（昭46年）	藤井寿美枝（昭48年）
会員委員会	丸山祐荘（昭34年）	細川　匡（昭41年）	渡部公麿（昭49年）	三輪京子（昭55年）
母校振興委員会 （母校振興）	渡部英明（昭39年）	森信秀樹（昭46年）	木下京子（昭53年）	根石紀雄（昭55年）
（定時振興）	月村俊雄（昭39年定）	桑原佐智江(昭47年通)	中山正幸（昭46年定）	
（奨学財団）	吉田信秀（昭44年）	反田哲顕（昭50年）		
監事	河野　隆（昭44年）	長野耕治（昭50年）		
事務局	久保木敬子（昭42年）			
（当番幹事）	平成26年　紀本一樹（平3年）	平成27年　橘　信一（平4年）		

Ⅰ 一般会計　平成25年度決算報告書（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

（単位：円）

収入の部		支出の部			
前年度繰越金	8,043,216	会報費	1,828,272	備品費	78,000
入会金	999,000	事業費	225,454	慶弔費	5,100
終身会費	3,221,000	人物録作成費	102,205	雑費	113,185
年度会費	21,000	会費請求システム維持費	97,035	顕彰費	83,160
寄附金	9,500	助成金（二木会等）	2,500,000	CD（校歌等）複製	0
利息収入金	73,609	事務費	1,494,784	修繕費	0
50周年CD販売入金	1,000	消耗品費	218,513	母校振興費	60,000
雑収入	6,740	印刷費	227,328	税金	0
二木会・総会剰余金	1,322,510	通信費	169,015	慰霊碑献花代	44,100
		会議費	169,503	次年度繰越金	6,194,289
		水道・光熱費	87,632		
収入計	13,697,575			支出計	13,697,575

Ⅱ 基金

1．鯉城同窓会基金（単位：円）

前年度繰越金	7,000,000
次年度繰越金	7,000,000

2．教育振興基金（単位：円）

前年度繰越金	16,500,000
次年度繰越金	16,500,000

Ⅲ 特別会計

同窓会館建設費特別会計

（単位：円）

収入の部		支出の部			
鯉城同窓会基金の取崩	75,000,000	建築費	78,065,000	印刷費	394,103
寄附金	20,126,000	備品費	3,982,992	通信費	145,550
雑収入	440,000	事務費	792,200	会議費	429,451
利息	1,852	消耗品	4,411,344	雑費	267,455
				租税公課	0
収入計	95,567,852			支出計	88,488,095

※総収入 95,567,852 円－総支出 88,488,095 円＝ 7,079,757 円（剰余金）　※剰余金 7,079,757 円は、鯉城同窓会基金に戻入する。

OB講演会

「想定外」こそ宝の山

日赤医療センター名誉院長　増田寛次郎さん

「謙虚によくよく考えて」

恒例のOB講演会が、11月19日、母校体育館で開かれた。今年の講師は昭和30年卒同期生（2年時、東京に転居）で、日本赤十字社医療センター名誉院長、日本失明予防協会理事長の増田寛次郎さん。東大名誉教授でもある増田さんは「人生紆余曲折」の演題で、体験をもとにした考え方やアドバイスを、映像を活用しながら後輩たちに優しく語りかけた。

壇上に立った増田さんは、「国泰寺高校に在籍した1年1か月は、自分にとって最も懐かしい時代」と語り始めた。そして自然災害頻発の事例を踏まえて「想定外の出来事こそ宝の山」と話を展開させた。

増田さんが取り上げたのは、2002年にノーベル化学賞を受賞した田中耕一さんと2014年に同じく物理学賞を受賞した天野浩さんの2人。2人はいずれも実験中の失敗を、単なる失敗と片付けず、それをきちんと原因究明して新発見にこぎつけた事実を、具体的に説明した。

後輩の在校生たちに語りかける増田さん

さらにアメリカ留学中、痛みや炎症の原因物質であるプロスタグランディンについて、ある大学教授から緑内障の治療薬としての可能性を指摘された際、「その可能性はない」と答えたことや、後にこのプロスタグランディンの眼圧を下げる薬理作用が、画期的な緑内障の薬の開発につながったことを紹介。「私の判断ミス。失敗でした」と振り返り「仮説通りにことが運ぶのは当たり前。予想外の結果やデータが得られたときこそ、謙虚によくよく考えることが必要。これが科学者の態度です」と話した。

高校時代については、「私が最も影響を受けたのは高校時代の友達。真心のつき合いができるし、一生の宝です。これは今の年齢になって言えること」と述懐した。またグローバル時代を視野に、若い時期に英語を身につけることの重要性を強調。「毎日英語に触れることを習慣に」とアドバイスし、アメリカ留学中の経験を踏まえて「読み書きはできても、ディスカッションの際に評価が分かれる。これからの日本人の英語は、ディスカッション能力を磨く必要がある」と述べた。

最後に自分の専門である眼科について、「アメリカでは人気があるのに、日本では志望者が少なく、将来に危機感を抱いている状況」と話しながら、この分野の将来性を指摘。若い女性に流行しているカラーコンタクトレンズの弊害や、白内障手術が飛躍的に進歩している現状などにも触れた。

講演の後、在校生からは「眼科を選んだいきさつは」「眼科研究の実験動物にウサギが使われる理由は」などの質問が相次いで出され、今回の講演が若い感性、知的欲求を大いに刺激したことを裏付ける形となった。

〈略歴〉

1964年東京大学医学部卒業、87年東京大学医学部教授、98年関東労災病院院長、2001年日本赤十字社医療センター院長、09年増田記念アイケアクリニック院長。日本失明予防学会理事長、東大名誉教授。このほか多くの要職を歴任。

叙勲・特別賞を総会で表彰

平成26年度、各種の賞を受章された同窓生の方々を、11月15日の総会で顕彰した。

《叙勲・褒章関係》

▽瑞宝小綬章（運輸行政事務功労）
昭和37年卒＝高見正明

▽瑞宝単光章（調停委員功労）
昭和38年卒＝末長昌子

《警察庁長官表彰》

▽功労者表彰（医療検視分野）
昭和24年⑤卒＝沖野宏敬

《特別表彰》

▽功績（同窓会振興）
昭和29年卒＝松尾聰

▽功績（定時制振興）
昭和39年定卒＝月村俊雄

出逢いの力”
e Encounter

9年卒の皆さんによる乾杯

特別表彰を受けた松尾さん㊥と八木会長㊧、河田校長のスリーショット

総会資料を一生懸命見て質疑応答をするOB

新たな出逢に胸弾ませて集う同窓生達

母校愛にあふれ肩を組み「鯉城の夕」を熱唱

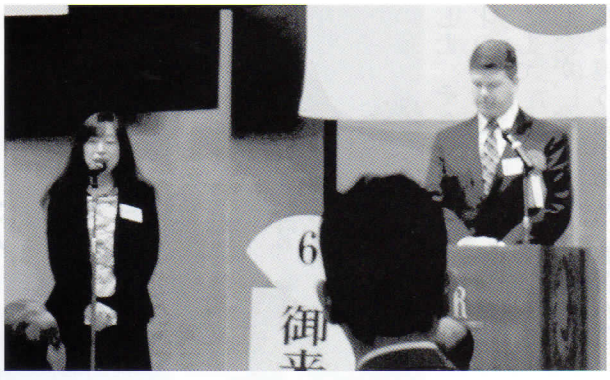
今年度も最後まで盛り上がりました

今年度の鯉城同窓会総会にも、全国から多数の同窓生の皆様にお集まり頂き、誠にありがとうございました。当番幹事として御礼申し上げます。

諸先輩方をはじめとした鯉城同窓会に関わる皆さまから温かいお言葉とお力添えのおかげで今年度の総会を無事終えることができました。

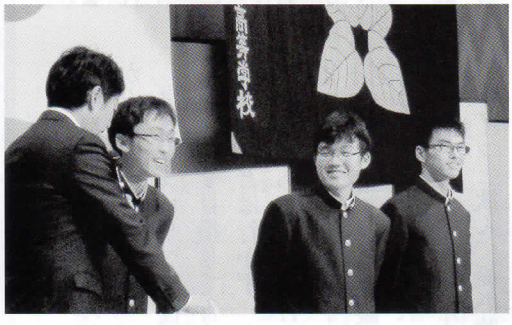
平成26年度の鯉城同窓会は「出逢いの力」をスローガンに活動しています。同期の仲間や、先輩・後輩とのつながりを力として新たな未来を創造することを念頭に「出逢いの力」とし、人に出逢い、育むことで新しい未来を創り上げる一助にしたいという想いをス

これからも“母
Power of the

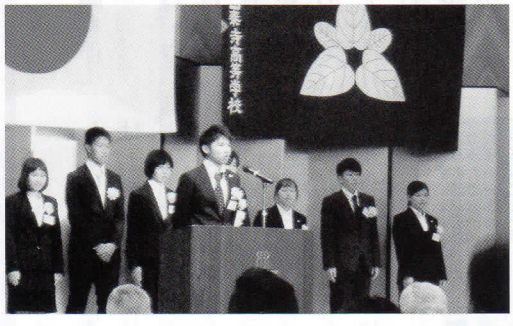


姉妹提携校「BCA」校長(米国ニュージャージー州)挨拶。通訳は卒業生で現在、英語教諭の伊藤玲子さん

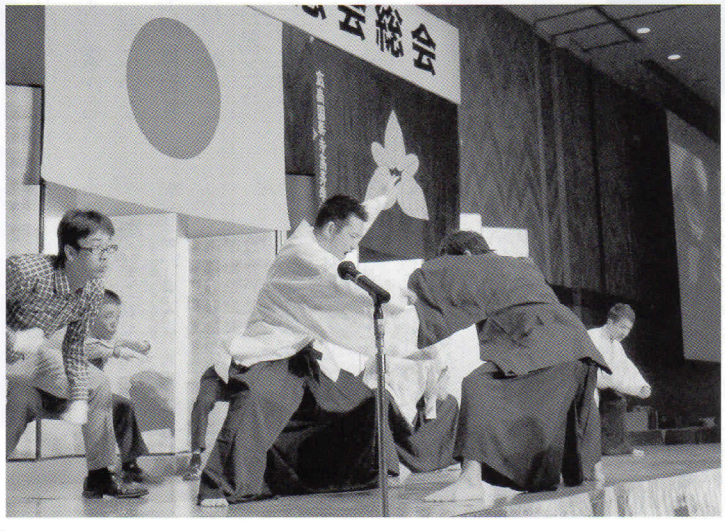
今年度当番幹事司会の2人



「ストックホルム水大賞」受賞について語る在校生



同窓会に入会の挨拶をする在校生



喧嘩三三七拍子の演武をするOB応援団

卒業から50年を迎えた昭和3

ローガンに込めました。

今年度、同窓会活動を行わせて頂き、新たに先輩・後輩と出逢い、私達、当番幹事にとって大きな力になりました。また、18年前に出逢った同期の存在が大きな力となったことは間違いありません。

今後も、一つの出逢いを大切にし、積み重ね、繋ぎあわせ大きな同窓の絆となるよう平成3年卒業生一同、これからも力を合わせ、鯉城同窓会の発展のため頑張ってまいりますので、よろしくお願いいたします。

平成3年卒　代表幹事
紀本　一樹

私の近況

GANBARISM

昭和26年卒　宍戸和子

今年は8月に2人目の曾孫が生まれ、すっかり大おばあちゃんになってしまいました。たまに会うと、びっくりする位成長しているのが楽しみです。

それにともなって我が家族の最高齢者になってしまいました。そこでボケ防止にと80才の誕生日に自分への贈り物として、ipadを購入しましたが、今までのパソコンとは多々違う面があり、四苦八苦でした。手引書を見ても皆目分からないのでやっと3か月の初歩的な講習を受ける事にしました。そのおかげでどうにか使えるようになりました。

今年は2年経過したので新しい小さいサイズに買換え、先ず曾孫の写真や「アナと雪の女王」などの音楽を取り込んで上手に使いこなせる様になっています。遠方へ出かける時には先方の地図を出し予習して出かけます。何事にも興味を持ってトライしているこの頃です。

どうぞ我々の年齢になると「もう年だから」と言ってしまわないで、どんどん頭を活性化したいと思います。

（広島市中区中島町）

昭和39年卒　有田健男

6月の1か月でチェコとポーランドを自転車旅行してきました。

6月のヨーロッパは最も気候が良い月と言われ、チェコは毎日快晴、ビールは旨くて安い、ジョッキ1杯100円、早い話飲み放題状態、風景とともに楽しみの一つでした。

ビルケナウ収容所前

一方ポーランドは雨が多く、曇れば冬の様に肌寒くアウシュビッツ収容所の見学は半分で打ち切り、山積みされた幼児の遺品に、わが孫の顔も浮かんで胸が痛む。

アウシュビッツの後は、ワルシャワを目指して行け行けドンドンとは行かず。夜中から降り始めた雨が翌日昼過ぎまで上がらず、テントの中でジット雨宿りこれが続くと一番つらい。雨が上がれば、真っ先にテラスへ走って生ビールをグイッと飲んで憂さ晴らし、この繰り返しでした。ワルシャワから日本に向かう機上より、初めてで最後のチェコとポーランドに別れを惜しむ。そのうちどこかで行き倒れになる不安はあるが、次の新しい国に行ってみたい。

（広島市西区田方）

昭和40年卒　打田幸太

37年間勤務した広告会社を定年退職したのは、8年前の春。宿題のない夏休みを迎えた小学生の心境でした。ところが背中に羽の生えたような気持ちは1カ月ともちません。働いているからこそ、たまのOFFが楽しいことを改めて実感しました。家でブラブラしていても味気なく、妻からは「お願いだから、家にいないでください」と半ば脅迫される毎日。そこで心機一転、「どうせ外に出るのなら働こう。少しでもいいからお金を稼ごう」とギアチェンジ。縁あって小さな出版社に週・4日勤務しています。

仕事は、PR誌、社史、記念誌、社内報制作のプロモートと企画設計。定期刊行物の編集会議にもメンバーとして参画しています。もともと好きな業界なので全く苦になりません。

おかげさまでわが家は家庭円満。健康であるという前提で、社会から必要とされている間は働く所存です。

「働いて遊ぶ」。黄金の10年がいよいよスタートです！

（大阪府箕面市）

昭和40年卒　山根克彦

まだ仕事をしているのでTVの看守役は任命されていないが、以前に比べて視る時間は少々増えてるかもしれない。

TVに向かって返事をしたりツッコミを入れるのは、歳をとった証拠だ！ということは、昔からよくいわれてきたが、どうも知らず知らずの内にツッコンでるらしい。愚妻によると「ミステリー」「警察実録もの」が特に激しいらしい。

そういえば疑問が湧いてきた。つい最近のツッコミだ。…ここ数年、新聞紙面で毎日のように教員、警官、公務員は勿論のこと一般の男性が痴漢で逮捕。この時、住所、氏名、年齢、職業まで掲載され一生を棒に振ってしまう。多分。

これに対し、警察実録ものでは、覚せい剤常習者が猛スピードで逃げ回り信号無視の上、パトカーとカーチェイス。

（11頁へつづく）

酒気帯び運転の上ひき逃げをする。強盗、強姦魔等を逮捕する物語だ。…この時なぜ顔、実名を出さないのか？全てばかしを入れてしまい犯人像さえ捉えられない。

私の頭の中では、彼等は〝極悪非道市中引き回しの上、打ち首〟に相当する。痴漢で一生棒に振る人と打ち首が相当と思う人を擁護するこの差は、「マスコミ人は、どんな定規を持ってるんだ!!」とツッコンだことだ。

犯罪者への人権擁護意識が高まっているとはいえ、誰かオッサンにも判るように説明して欲しいなぁ。

（京都市西京区大原）

昭和43年卒　迫　孝治

65歳の誕生日を前にしたある日、介護保険の保険証が届いた。これは、5年まえに還暦をむかえたときより、精神的にかなりショックだった。そういえば最近目がショボショボするし、ゴルフの飛距離も少し落ちてきたような気もする。

それでも気をとりなおして先日、ドイツ・フランスへ海外出張にいってきた。この歳になると12時間のフライトはかなりこたえる。ソウル経由でフランクフルトに到着した翌朝、ICE（ドイツ高速列車）でフライブルグへ向かった。フライブルグは、黒い森（シュバルツヴェルト）とライン河にかこまれた美しい自然に恵まれた人口20万人ほどの街で、旧市街地内の街路が、ほぼすべて歩行者専用道路となっており路面電車とバス、鉄道を中心とする環境保全のための街づくりが行われていた。ここでは、都心への自動車乗り入れ規制や路面電車やバスなどの公共交通中心の街づくりがおこなわれており、環境保全や、市民の快適な生活空間の確保がなされていた。

翌日、フライブルグからEUの主要機関のおかれている都市ストラスブールを訪れた。ここでも、トラムを中心とした都市環境が整備されており、われわれのような高齢者にやさしい、歩行者や公共交通中心のまちづくりがされていた、これから高齢化していく我が国の公共交通のありかたを考えながら、つぎの目的地、パリ、モンサンミッシェルへとむかった。

ストラスブールの街並みと電車

（広島市西区東観音）

昭和46年（定）卒　宮岡成一

このたび、同窓会の方から「近況を書いてほしい」との依頼があり、何を書いたらいいのかと弱っています。私は現在68歳になります。同級生とは5年遅れて国泰寺高校定時制の門をくぐりました。最初は皆さまについていけるか心配でした。でもなんとか卒業できました。

その後、いずれも事務職員として、盲学校に8年、国泰寺高校通信制課程で3年勤務しました。このほか高陽高校にも勤めましたが、体調を崩して雑用が多かったのを思い出します。

63歳の時に重症筋無力症になり、飯がのどを通らなくなりました。水を飲んでもすぐに鼻から出るという状態で、I病院に入院。毎日点滴が続きました。しばらくしてK病院に転院、鼻から胃まで管を通して、栄養分を送り込む生活が始まりました。

口から食べることができないのが、こんなにつらいものとは…。そしてI病院に戻って手術待ちの日々です。ここでも鼻から管を通して栄養補給。みんながおいしそうに食べているのが、どんなにうらやましかったことでしょう。

手術の日が決まりました。忘れもしない平成21年5月26日。その日は朝からそわそわしていました。手術開始。胸を開いて肋骨を外し、胸腺を切除…。術後もいろいろ検査があり、6月19日に初めてゼリーを食しました。そこからだんだんと常食になり、ようやく退院しました。

今でも腰は痛いし、膝に水がたまったりするなど、病気と縁が切れずにいます。それでも命あるかぎり、まだまだ頑張ろうと思っています。

（広島市東区牛田中）

昭和46年（定）卒　中山正幸

3年前に退職し、第二の人生を生きる。

妻や弟に頼りっきりの母親の介護、これからと思っていた矢先、退職に安心したのか、ひとりだちせよとの教示なのか、わずか2週間であっさりと他界してしまう。「孝行のしたい時分に、親はなし」だ。

疲弊した自身の手入れ。傷めていた心臓の調律を手術で元に戻し、健康回復を図る。

初めての野菜づくり、自己流にて研修中。不案内なことばかりだが、毎日が「課題研究」で面白い。

趣味にとて、尺八を始める。音感無く、音痴の私には相当きつい。投げ出しそうになるが、うまくいかないからこそ、続いている。

アクロポリスの丘に登り、夢にまで見たパルテノンとの対話、四国遍路巡礼など、各地での非日常も妻と味わう。

3人の孫にも出会う。孫に教えられることも多く、新鮮で楽しい。

そんな折、追突事故に見舞われる。旅の友にと用意した愛車は大破。今だにむち打ち症に苦しむ。これも人生、順風だけが吹くのではない。

出会いを大切に、晴耕雨読の老爺を目指す。

（広島市安佐北区可部）

（12頁へつづく）

昭和47年（通）卒　藤井春之

今年9月初め、娘と仕事道具を届ける為に息子の住むフランスへ初めて行きました。

到着の翌日、息子の案内でベルサイユ宮殿や世界最古のデパートを見学しました。

日本のデパートでは1階に化粧品、貴金属売り場があるが、このデパートでは1階が食料品、鮮魚売場。しかもカウンターがあり、お客さんが食べたい生魚を注文して、店員がその場で調理して出す。それをお客さんが箸で食べる。私には不思議な感じでした。

夕方に、モンマルトルの丘を散策して、セザンヌやゴッホがよく通ったレストランで画家気分でディナーを満喫しました。

翌日は、ルーブル博物館から水上バスでエッフェル塔に移動。水上バスの船長は、日本オタクで、仲良くなり、盛り上がり過ぎて、接岸失敗。船体横を破損のおまけ付きでした。

ベルサイユ宮殿をバックに

子供達の入念な計画に感謝し、泥棒、押し売をクリアしたパリ珍道中でした。

（広島市安佐南区川内）

昭和54年卒　小田千鳥（旧姓大前）

人生の中間地点はすでに越え、今年もまた誕生月を迎えました。子育てはいよいよ終盤に近づき、3回目の受験生の母として、人並みに悩んだり、考えたり…の落ち着かない毎日です。

子供たちが家を出て行った時、手元に何か残ってるように準備しておくつもりだったのに、今の私には何もなくて…と、近況報告を考えていた矢先、同級生　長澤（旧姓高橋）由利さんの訃報がはいりました。

彼女とは、高校卒業以降、疎遠になっていたとはいえ、年賀状の交換は続き、お互いの生活～就職、結婚、子育て、など報告しあっていました。

今年の年賀状には、お嬢さんが青森放送のアナウンサーに内定したとの嬉しそうな報告がありましたが彼女自身が病と闘っていたとは…。

とても寂しいです。

平凡だけれども元気で過ごせる毎日、子育ての悩みもいつか懐かしい思い出に～。

そんな当たり前のことの大切さを気づかせてくれた由利の訃報です。

ご冥福をお祈りいたします。

（広島市中区吉島東）

昭和57年卒　佐藤太哉

現在は大阪在住で新聞社に勤務しております。一度海外脱出を図った時期もありましたが、関西在住が既に人生の過半となり、母校の様子は旧友から仄聞する程度で記憶と共に遠ざかっておりました。

しかし昨年、同学年だった土田伸之君から唐突に関西鯉城同窓会へのお誘いを頂戴し、今年3月の関西支部総会に初めて出席させて戴きました。その折に触れた同窓会皆様の母校愛と熱意ある活動、そして三十数年振りに聴く「鯉城の夕」に深く感銘を受けて、これまでの不明を恥じ入るばかりでした。

またこれをきっかけに、野球部の1年後輩の山本将司君が、来年12月に阪神甲子園球場で開催される第一回全国大会出場校の記念行事開催に尽力されている事を知りました。私自身、微力ながらも関西在住ＯＢの一兵卒として何かのお礼に立てればと強く望む次第です。

これからは伝統ある母校の格式高い同窓会の隊列の最後方に馳せ参じた新参者ゆえ、野球部へのご声援と共に、ご厚誼のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

（大阪市東城区）

昭和60年卒　松本裕子（旧姓宗岡）

6年前、当番幹事のお手伝いをさせて頂く事になり、20数年ぶりにたくさんの懐かしい友達と再会することが出来ました。同窓会活動では、とても楽しい時間を過ごせました。活動に誘ってくれた同級生に感謝です!!

2年前には、娘と一緒に、国泰寺高校のオープンスクールに参加しました。校門から続く、たくさんの在校生からの歓迎の花道と挨拶に、少し照れながらも感激！伝統と質実剛健の校風に、子どもよりも私の方が、「この学校がいい!!」と、盛り上がっていました。

残念ながら娘は、最終的に自分の夢に近い学科のある高校を選んだので、親子二代で国泰寺高校に通うことは今のところ叶っていません。下には息子がいますので、もしかしたら…と、淡い期待を持っていますが、そう上手くはいかないかな?

現在47歳、平凡な主婦です。子ども達との楽しい日々が私の元気の源です。数年前から、歴史にはまりつつあるので、将来は、主人と一緒に歴史の名所巡りが出来たら、と思っています。

（広島市西区井口明神）

平成元年卒　藤本浩司

歴史のある鯉城同窓会会報に私のような若輩者の拙文を掲載させていただき、厚く御礼申し上げます。

高校卒業後は、広島修道大学へ進んだ後、廿日市市消防本部に勤務して現在に至って

（13頁へつづく）

同期会だより

ゴルフ通じ同期の親睦

昭29年卒

昭和52年は、学校創立百周年に当たり色々な記念行事が行われました、私たち29年卒が当番幹事で、多くの同級生が協力して無事大役を果たすことが出来ました。

これを機会にゴルフ会を結成しました、会のネーミングは百周年と29年卒のゴロ合わせで「百二九会」（ヒャクフク会）とし、年間3－4回のペースで開催すると、数え年80才で会の名前と並ぶ129回が達成出来るので、それを目標に頑張ってきました。

当初は50人余りの参加者で盛大な会でした、遠くはハワイ、香港、国内は九州、中国地方一円に足を伸ばしました。女性の参加も常にあり時には夫婦同伴の会もあり楽しい同級生のゴルフの会でした。

そして時が経ち、60才を過ぎた頃からは病気、体調の崩れ、更には亡くなる方も出始め、次第に参加者が少なくなってきました、70才頃からは10数人で頑張り続けました。

そして今年10月、38年を要して目標の129回を無事達成し、私たちも目出度く数え年80才の傘寿を迎えました。

卒業以来60有余年が経ち、広島も母校も様変わりしています、私たちの高校時代は戦後間もない頃で、何もかも不十分な時でした、それだけに同級生の絆は強く、残り少ない人生を励まし合って頑張ろうと誓い、長く続いたゴルフ会を終了しました。

（寺本　稔）

来年は卒後60周年記念

昭30年卒

恒例の同期会が今年も8月13日にメルパルク広島で開催されました。

最初に、集合写真を撮り、会場では、物故者に対しての黙祷があり、藤川昌寛君の詩吟で幕開け。佐々木（旧姓・村上）勝美さんの乾杯でスタートしました。

今回からは、スナップ写真はなしです。なんたって、昔、美男美女の現在の姿を見たって、しょうがないでしょ。

参加者は総勢33名。名幹事の柴田修三君が亡くなってから最初の会で、初めての参加者は、大阪から田村昶三君、東京からは、乾杯の佐々木さんと高橋（旧姓・村山）啓子さんで高校時代に戻り、段々盛り上がり始めたところで、近況報告。

最初のころは、神妙に聴く人もいましたが、森重昭君の〝菩提樹〟を歌っているころには、一体何人の人が聴いていたのか分からないくらい、一段と盛り上がっておりました。

来年は、早いもので卒業60年。なにか記念行事を、ということで散会しました。

（末長　邦夫）

卒業し50年古希迎える

昭39年卒

私達昭和39年卒業生は、卒業50年、数え歳で古希を迎えました。光陰矢の如しとは、正にこのことです。

平成26年10月16日、ホテルセンチュリー21を会場に、還暦同期会以来8年振りの、第13回鯉城一五会（国泰寺高校十五期生）が開催されました。

彼岸に旅立たれた恩師や同級生の冥福を祈り、黙祷を捧げて、会長正田健一氏の挨拶で、総会に入りました。

この度は、恩師の出席はかないませんでした。

県外者20名を含む60余名、卒業以来初めてという懐かしくも嬉しい再会もあり、懇親会は大いに盛り上がりました。年月の経過はあるものの、青春時代を共に過ごした絆は、温かく強いものだと、しみじみ感じ入りました。

次回、喜寿での再会を期し、散会しました。

（14頁へつづく）

います。予防課、救助隊、広島県消防学校教官派遣等を経て、今は総務課に勤務しています。様々な災害現場に出勤し、火災や事故で多くの尊い人命や財産が失われるのを見てきました。特に幼子が犠牲になる災害は痛ましく、忘れることができません。今後はこのような犠牲を少しでも減らせるよう、消防業務に邁進していく所存です。

大学で覚えた空手道を今でも続けています。「錬心舘安芸地区本部」で検索してみてください。2年前までは選手として全国大会などに出場していましたが、今は地元の廿日市市スポーツセンターで地域の方々と共に汗を流しています。伝統ある鯉城同窓会員であるプライドを忘れず、消防、空手道ともにこれからも精進していきたいと思っています。

（廿日市市阿品）

一か月後の鯉城同窓会には、30名の同期生が集い、ここでも数十年振りという邂逅がありました。卒業50年が乾杯の音頭を取るという晴れがましい役目を頂きました。30年前、同期生から寄贈された鯉城一五会旗を持って登壇しました。鯉城同窓会副会長の渡部英明氏が、乾杯時、国泰寺高等学校校長先生に「広い視野を持ち、グローバルな人材の育成をお願いしたい」と要望したスピーチが印象的でした。

同期会、同窓会と相次いで催され、再会の喜びを頂き、母校の後輩の素晴らしさに誇りをもちました。私も自分らしさを発揮しながら、ゆっくり自分の人生を全うしたいものだとつくづく思いました。

（小梶　雅子）

古希の会に44人が出席

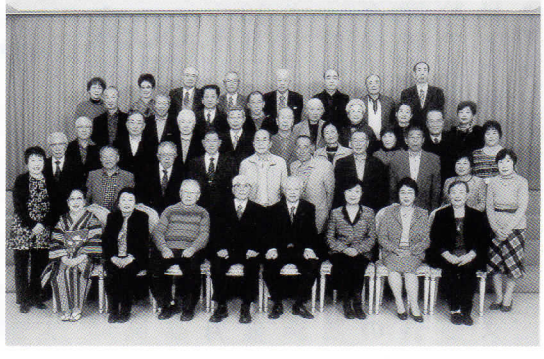
昭39定卒

私たちは昭和39年3月に定時制課程を卒業しました。当時は50人クラスが3組で約120人ぐらいが卒業いたしました。非常に進学率も高く、広島大学を始め国立大学には30名くらいが進学し、私立大学には、早稲田大学の理工学部や政治経済学部等に40名くらいが進学いたしました。

その後それぞれの企業に就職し、社会にそれぞれの立場で貢献してきました。昭和39年は東京オリンピックが開催された年であり、思い出に残る卒業式でした。あれから丁度50年が経過いたしました。

現役入学の同期生は今年が古希の年であり、この度の同期会は「古希」の会というタイトルで行いました。11月22日に開催し44名の同期生が集まりました。その間分かっているだけで9名の同期生が逝去されており、会に先立ち哀悼の誠をささげ、会を始めました。

50年の歴史はそれぞれの人生に様々な思い出があり、各自一分間スピーチを行い、2時間半の時間はあっという間に経過いたしました。次の会は「喜寿」の会をしようと確認しあい、会を終了いたしました。それから2次会となりカラオケを全員が歌い、思い出に残る会が終了いたしました。



また母校では毎月二木会が開かれていることをお知らせし、出来るだけ出席するように申し合わせもいたしました。紙数の関係で以上を持ちまして近況報告といたします。

（月村　俊雄）

還暦記念し同期会盛大

昭47年卒

平成26年8月16日、ホテルグランヴィア広島で同期会を開催しました。

参加者は、恩師3名（大西先生、脇先生、福本先生）、同期生110名（内県外在住者28名）でした。

16：00から全体の記念写真を宴会場の特設スタンドで撮影し、少し間を置き開会。開会では18名の故人に対し黙祷、続いて校歌斉唱、広島国泰寺の現状及び同窓会報告、本日の進行についての説明がありました。

開会後まず自己紹介。1組からクラス毎にステージに上がり、1人15秒以内のスピーチを行いました。（中にはスピーチが長すぎ司会者に中断される人もいましたが、参加者の近況等を知ることができるとともに、スピーチで各人の人間性を感じることができました。）

その後、東京在住の同期生によるヴィオラ演奏、歓談と続きました。歓談中には、高校1年時のクラスを1組から順にステージ上に再現しました。自分が何組であったのかはっきりしない人がかなりおりましたが、かつてのクラスメイトを確認することができ、ステージ上で懐かしく顔を見合わせました。また、クラブ毎にステージで記念写真を撮り、19：30まで楽しく歓談しました。

最後は、声高らかに「鯉城の夕」を歌い、次回は3年後の開催を確認して閉会となりました。

閉会後は、近隣の「エキカラ」及び「ひらもと」に集まり2次会を堪能しました。

後日、全体写真と3名のカメラマンの撮った写真はホームページに掲載し、参加者や欠席者が閲覧できるようにしました。

（広本　円）

「北海道鯉城」実現へ動き加速

現地からのレポート

吉近さん(手前)を囲んで、左から松瀬さん、上向さん、白石さん

皆さんは覚えておられるだろうか。前々号の会報「鯉城第65号」の「私の近況」欄に掲載された昭和61年卒の上向昇さんの文章を…。北海道札幌でお好み焼き店を経営する上向さんを中心に「北海道広島県人会」が発足した、という内容だった。これに注目したのが、同窓会広報委員会のメンバーで、愛媛県宇和島市在住の吉近利枝さん（昭51年卒）。はるばる北海道まで足を運んで、上向さんを訪ねた。2人の出会いや話し合いの結果もあって、北海道鯉城（仮称）設立の動きが本格化してきた。そこらあたりの事情やいきさつを、吉近さんがレポートしてくれた。

馬好きから北海道好きになった私は、いつしか北海道在住の同窓生と交流したいと思うようになりました。そんな時、会報65号で札幌在住の上向昇君を知り、「北海道の同窓生と交流したい」という気持ちを同窓会事務局長に伝えたのです。その結果、上向君がお好み焼き店「しずる」のマスターであることが分かりました。

今年7月中旬、アポ無しで初訪問するも、なんと定休日。宇和島の自宅に帰り、店を訪問したこと、来月また北海道に行くことなどを手紙に書き、上向君に出したのでした。そして8月末日、上向君と私はめでたく初対面を果たしました。広島風お好み焼きをいただきながら、国泰寺高校の名前を決める時、雑魚場高校の名前が候補にあがったことなど、雑魚場町（現国泰寺町）出身の私ですら知らなかった話題で盛り上がりました。

「しずる」では、時々、チーム国泰寺と名付けた同窓生数名の集まりがあるということ。北海道には現在約70名の同窓生がおり、私としては、今のチーム国泰寺の交流の輪を、もっと広げたいと思い、北海道鯉城（仮称）設立の協力を求めたところ、上向君の快諾を得ることができました。

そうして10月28日夜「しずる」において、チーム国泰寺のメンバーと私とで、第1回北海道鯉城設立準備委員会の集まりを開くことができました。私より10歳年下の上向君、2歳児のパパ白石孝信君（平成7年卒）、私の娘と同年の松瀬弘也君（同13年卒）と一緒に写した写真は、チーム国泰寺と言うより、私の還暦祝いの写真のようにも見えますが、これからはこの縁を大切な支えとして、鯉城同窓会に新しい出会いの世界を広げていけたらと思っています。

もうすぐ還暦を迎える身とはいえ、歴史ある鯉城同窓会の中にあっては、まだまだ若輩者です。皆様方のご協力とご支援を、よろしくお願い申し上げます。

北海道鯉城準備委員会連絡先は、お好み焼き「しずる」の上向昇さん。

電話番号は

☎０１１（８９６）０４２６。

（昭51年卒　吉近利枝）

鯉城関西同窓会総会
3月8日(日)
開催　11：00
ホテル大阪ベイタワー

中 平成27年度 総会
日　時　11月21日(土)17：00
場　所　リーガロイヤルホテル広島
当番幹事　平成４年卒業生

鯉城東京同窓会総会
5月13日(水)
開催　18：30
(財)水交会 東郷記念館

頑張りましょう ご同輩の皆さん

エッセー集「好かれる老人　嫌われる老人」

迫　勝則さん（昭和40年卒）が新著

迫さんの新刊「好かれる老人　嫌われる老人」

迫　勝則さん

作家、TVコメンテーターとして活躍する迫勝則さん（昭和40年卒）が、老いの道行きの生き方などを書いたエッセー集「好かれる老人　嫌われる老人」を出版した。身近な素材を手掛かりに、独特の鋭い考察を交えながら、軽妙な筆致でつづっている。

今回の著書の背景になっているのは、4人に1人が65歳以上という高齢化社会の現状。迫さんは全体を「老人の言葉」「便利という不便」など7章の小テーマに分け、「自立した老人」「認知症」「団塊シニア」「嫌われ老人は長生きする」など計52項目のエッセーを収録した。

それらを読み進むと「未来を語る老人は好かれる。過去を語る老人は嫌われる」「老人がいつまでも居座っていると周りが迷惑する」などの自戒の念を込めた言葉の数々に出会う。このほか、一般的には批判されることの多い「ワカモノ言葉」について、「相手に伝わることが一番」と優しく弁護したり、その一方で、若者から会話を奪うスマホの普及に対して、「コミュニケーションの根源的な危機」と警鐘を鳴らすなど、さまざまな角度から提言やアドバイスを盛り込んでいる。

迫さんは現在67歳。32年にわたって「広島の自動車会社」で働き、広島カープ関連の多くの本を著したほか、大学の教員、地元テレビ局のワイド番組にコメンテーターなど、多彩な活動を展開してきた。

今回の著書の「エピローグ」で、迫さんは「この本を読んで、少しでも、日本の未来と老人の生き方について、思いを巡らせてもらえたら…」と著書に込めた願いを述べている。

ザメディアジョン刊、281ページ、1200円（税別）。

400人が参列　一中慰霊祭

7月27日、母校一中慰霊碑前で、原爆死没者慰霊祭が、関係者約400人が参列して、あいにくの雨の中、しめやかに営まれた。式典は当番幹事の皆さんによって進められ、河田敦之校長、福間駿吉鯉城同窓会副会長、中山美波国泰寺高校友会会長の追悼の辞が捧げられた。続いて参列者による献花。例年通り、鯉城ステアコールの献歌もあり「ひろしま平和の歌」「花は咲く」「鯉城の夕」などが披露された。

編集後記

米国オバマ大統領が連発した「チェンジ」という言葉。今回の会報発行に当たり、新鮮味の薄れたこの言葉が、何度か頭をよぎった。

まずは紙面のサイズの変更。読者の皆さんはすでにお気づきだろうが、従来のB5判からA4判に拡大した。文字も大きくなったので、読みやすくなったのではないだろうか。

さて、もう1つのチェンジは長年、広報委員長を務めてきた伊藤暉さんが同窓会副会長職に専念することになり、大石がバトンを受け継いだ。伊藤さんのこれまでの尽力に深く感謝。

今後は他の5人のメンバーと力を合わせて、さらに読みやすい会報づくりを…と意気込みながらも、いささか緊張気味。よろしくお願いします。

（大石）